



※児玉保健センターは不在の場合もあります。事前に電話でお問い合わせください。

●乳幼児健康診査・健康相談

【受付時間】 ☆印…午前9時30分～10時、★印…午後1時～1時30分

※対象者には通知します。

内容	対象となる人 (お住まいの地域)	日程	会場
★3～4か月児健康診査	平成22年6月生まれ (本庄地域)	10月27日(水)	本庄市保健センター
	平成22年6月～7月生まれ (児玉地域)	11月18日(水)	児玉保健センター
☆9～10か月児健康相談	平成21年12月生まれ (市内全域)	10月27日(水)	本庄市保健センター
★1歳6か月児健康診査	平成21年3月生まれ (本庄地域)	10月25日(月)	本庄市保健センター
	平成21年3月～4月生まれ (児玉地域)	11月17日(水)	児玉保健センター
☆2歳児健康相談	平成20年9月生まれ (市内全域)	10月26日(火)	本庄市保健センター
★3歳児健康診査	平成19年9月生まれ (本庄地域)	10月26日(火)	本庄市保健センター
	平成19年9月～10月生まれ (児玉地域)	11月16日(火)	児玉保健センター

●育児相談・学級

【会場】 児玉保健センター

※電話による育児相談は随時受け付けています。各相談・教室の予約は、本庄市保健センター(☎242003)へ。

内容	対象となる人	日時	その他
すくすく相談 (育児・栄養相談、計測)	相談・計測希望の人	10月29日(金) 午前9時30分～11時	定員あり。事前に電話予約してください。
母乳相談	母乳のことで相談がある人	10月29日(金) 午前9時30分～11時	定員あり。事前に電話予約してください。
カンガルー広場 (情報交換・友達づくりの場)	0～2歳児とその保護者	10月18日(月) 午前9時30分～正午	おやつを持ち込みはできません。
おや親タマゴ	マタニティエクササイズ これからママになる人 会場: 本庄市保健センター	10月13日(水)・11月10日(水) 午前10時～正午	先着20人。事前に電話予約してください。
	母乳・沐浴 これからママ・パパになる人	11月6日(土) 午前9時30分～正午	先着20組。事前に電話予約してください。

ださい。(お持ちでない人は保健センターまで)



上手にヘルスアップ 『手軽に健康ウォーキング!』

ウォーキングは特別な道具を使わずに、自分の生活に合わせてできる運動です。「運動を始めたけれど何をしたらいいかわからない」「正しい歩き方が知りたい」というあなた。みんなで楽しく健康になれるウォーキングをしてみませんか。

日時 10月14日(木)
午前10時～11時30分
会場 セルデイ
対象 74歳以下の市内在住者
内容 保健師の講話と実技
定員 15人(多数の場合抽選)
申込 10月12日(火)までに本庄市保健センターへ

肺がん・結核検診のお知らせ

前年度受診者及び新規対象者には、4月中旬に受診券を郵送しました。受診券が手元にない人で受診を希望する場合は、各保健センターへお問い合わせください。

	本庄市保健センター会場	児玉保健センター会場
日程	11月5日(金)、8日(月)、9日(火)、11日(木)	11月1日(月)、2日(火)、4日(木)
受付時間	午前8時45分～10時、午後1時～2時	午前8時30分～10時、午後1時～2時

対象 40歳以上
内容 胸部レントゲン撮影、肺がんの喀痰検査(必要な人のみ)
料金 200円(喀痰検査が必要な人は別途500円)
※大腸がん検診の受診希望者は、検診時に申し出てください。料金(500円)と引き換えに、採便容器と検診日程表をお渡しします。

医療メモ

本庄市児玉郡医師会広報部

子宮頸がんは 予防できます!

- 一次予防
病気が発症する前に予防：
HPVワクチン
- 二次予防
病気が進行する前に発見し、
進行を止める(治療)：子
宮頸がん検診、HPV検査

子宮頸がんの原因



ヒト・パピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が子宮頸がんの原因であることが分かっています。このウイルスはごくありふれたもので、性交渉の経験がある女性であればほとんどの女性が一度は感染すると言われています。

このウイルスに感染しても、多くの場合はその人の免疫力によってウイルスが体内から排除されます。しかし、感染した人のおよそ10%の女性がウイルスを排除できずに感染が長期化(持続感染)してしまうことがあります。その場合、子宮頸部の細胞に異

常(異形成)を引き起こし、長い年月を経て子宮頸がんへと進行する危険性があります。

HPVワクチン



子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの原因として最も高頻度に検出されるHPV16型と18型の感染を予防するワクチンです。昨年12月に日本でも発売され、徐々に接種する人も増えていきます。

しかし、十分な抗体を得るために3回の接種が必要であり、また、1回の接種で16,000円～20,000円、0000円の自費診療となるため、なかなか一般化していません。公費の負担や補助が今後の課題となっています。

子宮頸がん検診



子宮頸がんは定期的に検診を受けていけば、がんになる前の段階(異形成)で発見することができ、この異形成の段階で治療を行えば、子宮を摘出することなく治療できる。その後の妊娠や出産にもほとんど影響はありません。子宮頸がんは自分自身で予防できる病気なのです。

細胞診の異形上皮の検出率は80%～90%程度のため、毎

年の検診で早期発見が可能となります。

HPV検査



HPV検査は、子宮頸がんの原因を持っているかどうか調べる検査です。従来からの細胞診に加えて、HPV検査を併用すると、検診の精度・感度が上がり、異形成の段階での発見をほぼ確実にすることができ、

子宮頸がんは、リスクファクター(危険因子)が解明され、予防できる唯一のがんです。一次予防として、HPV感染の始まる前(性行渉の始まる前)の10歳～14歳女子にHPVワクチンの接種が行われていますが、今後公費で負担されるよう、国が予算案を提出しているところです。

また、45歳までの女性にもHPVワクチンの効果は期待できるため、希望者への接種が勧められています。しかし、HPVワクチンで予防できるのは子宮頸がんの約70%であるため、二次予防の子宮頸がん検診は必ず受けてください。さらに、HPV検査が積極的導入されれば、子宮頸がんは予防できます。